



脅威論の大反撃!

ボロボロ出てきた ソ連帝国内
部崩壊のデータ 作られた
脅威で一番トクするのは誰か

日本人の多くがソ連嫌いということは、さまざまな調査で明らかだ。第二次大戦の終局に、日本人に奇襲をかけてきた悪印象は、まだぬぐいきれない。それに、ハンガリー、チエコ、アフガニスタンと、戦車を送りこんで民衆を押さえこんだ軍事大国の横暴さも、平和を享受しているわれわれにはおぞましい国と映っている。しかし、この国民感情と、現実にはソ連が日本にとって脅威かどうかとは、同次元で論じられていいものかどうか。最近、オクターブ高くなった「ソ連脅威論」は、正確にソ連の現実をとらえているのか。

北海道民は大迷惑の脅威論

「東京発の反ソキャンペーンはもういい加減にしてくれ」という北海道発の切実な声から紹介しよう。

一人は稚内市長・浜森辰雄氏。「北方領土の日」については私どもも協力を惜しみません。ただ領土返還を求めるには二つの方法があると思う。一つは政府が音頭をとって脅威論を振りかざして返させる、もう一つは日ソ友好を基調にして返してもらう方法。私としては後者を選

びたい。稚内市民五万五千人は漁業がその関連で生活していますが、ソ連の脅威を切実に感じている者なんていませんよ」

もう一人は常呂郡留辺蘂町の実業家・村井幸雄氏(41歳、元日本青年会議所副会頭)。最近「東京発・北方脅威論」という本を著して誇大な脅威キャンペーンに抗議した。

「東京発反ソキャンペーン」では、実害も出てるんです。企業誘致をしたくても、多くの会

▲北方領土の衛星写真(右)。ポーランドの追悼記念碑の除幕式に集まった民衆(中)。彼らに、ソ連戦車は砲門を向けるのか?

《問題提起特集!!》



ソ連帝国の恫喝 2大緊張(北方のソ連軍 ポーランド侵攻)での

▲巡洋艦キローフとフレジネフ書記長

社は「北海道は危いのでは……」と二の足を踏む。私の知っている稚内の男性は、縁談があったのだが女性の父親が心配してつぶされてしまった。どうも本州の人は、「ソ連侵攻は北海道だけでカンベンしてくれ」と願望しているところがある。道民に無用の不安感を与えるのはやめてもらいたい」

これらの声は「ソ連はこわいぞ、こわいぞ」の大騒ぎに対しての地元の反発といえよう。ところが、そこへ、ちょうど二月七日の「北方領土の日」に時期を合わせるようにして、ソ連陸軍のキリアン中将の発言が、これはヘモスクワ発共同で伝えられた。同中将は、国後、択捉の両島に「いくつかの大隊程度」のソ連軍が配備されていることを公式に認めた。これで再び「脅威論」の火に油を注ぐことになった。

上智大・内村剛介教授はこういう。

「キリアン発言は日本の『北方領土の日』設定に對するお返しだが、ソ連側の思惑は何か。孫子の兵法にある通り、最高の軍事戦略は実際に兵を動かすことなく、兵の威力で相手に脅威を与えることです」



ソ連のアフガン侵攻以来、北海道民を悩ませたのは、先の『東京発・北方脅威論』によるとマスコミや評論家たちによる「明日にも北海道がソ連に占領される」式の報道だったという。だが、防衛庁は表向きはともかく、本心は実はなかなかクルルなのである。陸幕のある一佐が、こう語る。

「軍事情勢のトップ情報を知れば知るほど、ソ連の現実的な脅威はないといえるでしょう。三年前(七八年)に防衛論議が高まり出す中で、私たちはマスコミにその点を重ねて強調して来たわけですが、そういう話は「地味だ」ということで受け容れられなかった。この間のキリアン発言にしても、北方領土にいるソ連軍は大隊規模に過ぎませんよと手の内を明かして、日本のマスコミの鎮静化を図った



ものだとわれわれは受けとめて
いる。北海道は陸上自衛隊のレ
ゾン・デットル（存在理由）だ
が、ヒステリックな脅威論はわ

ポーランド事件は威信低下

防衛庁自身がソ連脅威論に使
乗、あるいは推進した軌跡はハ
ッキリしている。社会党・横路
孝弘代議士が指摘する。

「防衛庁はけしからんですよ。
五十三年の防衛白書の中では、
極東ソ連軍について、中国に向
けられたもの」としていたが、
五十四年になると、中国にも、
となり、五十五年には記述その
ものを削ってしまった。実にや
り方が意図的です。虚構のソ
連脅威論に始まって兵器輸出問
題など、みんな産軍複合体の理
論がまかり通っているんです。
レーガン・鈴木会談の前に、こ
うした論調には水をかけておか
なきゃ、いけません」

れわれにとっても迷惑なので
す。プロバガンダ（政治的宣伝）
と客観的事実とを切り離して眺
める必要があります」

あるのも事実なのだ。いうまで
もなく、風雲急を告げるポーラ
ンドに、ソ連が軍事介入寸前と
いう情報である。

「ソ連は帝政ロシアの昔から世
界にとつての脅威になってお
り、革命後にますます侵略性を
強めています。帝政以来三百年
間、対外膨張を続けている事実
をみれば、決して防衛的な国と
はいえないでしょう。これはロ
シアという国の特有の文明的な
ものからきているのです」『悪
の論理』の著者・倉前盛通氏
（亜細亜大学教授）

それにしても、ソ連軍による
ポーランド侵攻は果たして起こ
りうるのか。モスクワ駐在が長
かった朝日新聞編集委員・木村
明生氏の分析はこうだ。

「ソ連は今、忍耐のギリギリの
極限状態にきている。ポーラン
ドの首相が軍人に代わったのも
その現れで、軍事介入は条件と
しては整っている。ただ、介入
を阻害する重要な要件も四つほ
どあり、少なくとも三月初旬ま
でに行動を起こすことはできな

い。その一つは今スペインのマ
ドリッドでデタント（緊張緩和）
のための欧州安保再検討会議が
開かれていること。マドリッド
会議の終わる三月五日以前にこ
とを起こすことはありえない。
また、ソ連国内では、第二十六
回党大会が二月二十三日から開
かれ、三月四日ぐらいまで続く
予定。党大会中に軍事介入はな
いだろう」

サンケイ新聞国際報道部の熊
田全宏氏は、「ソ連としてはポ
ーランドの今の状態は絶対認め
ることができず、ワレサ議長の
率いる労組「連帯」を必ずつぶす
だろう。それも、ワルシャワ条
約軍の軍事演習という形で二月
末から三月にやることとみている。
だが、『ソビエト帝国の崩壊』
を書いた小室直樹氏の見方はま
ったく違う。

「軍事介入はアッという間にや
らないと意味がない。五三年の
東独暴動、五六年のハンガリー、
六八年のチェコに対する介入は
みなそうだった。半年間、こじ
れにこじれた段階で入るのは最
低ですよ。歴史上ポーランドは
「侵略され慣れ」ている国民だ
から、ソ連の感情を害さない形
でことを処理する術を知ってい
るんです。ソ連には見せかけの
絶対服従の態度をみせ、対国内
的にはジワジワと労働者、農民

の要求を容れて行くでしょう。
ポーランドには滅びの美学があ
るんです」

そして小室氏の話は、「崩壊」
しつつあるソ連の実態に目を向
けるべきだという。

「ポーランド問題にしても、ソ
連の国内が政治も経済も軍事も
ガタビシで、崩壊寸前の状態だ
から、威信がとどかず起こった
ことです。経済の疲弊で、同盟
諸国に援助の手をさしのべるこ
とができない。軍事的にも昨年
の原潜火災（東シナ海）にみる

説得力のないソ連軍の侵攻

小室氏と同じように、「追
つめては危険」という観点で、中
嶋嶺雄氏（東京外語大教授、著
書『中ソ対立と現代』）が語る。

「十数年前、ちょうど中国が原
爆開発をしていたころ、中国脅
威論」というのが盛んにいわれ
た。しかし、それが日中関係、
あるいは中国内部の変化なども
あって、今では誰も、中国の脅
威、などとはいいません。

もともと「脅威」というのは
二つの側面がある。その一つ
は主観であり、もう一つは国際
環境という客観情勢からそうい
われるものです。今の「ソ連脅
威論」にしても何が脅威なの
か。①軍事力なのか、②軍事力

ように、理解できないような末
期的症状を示している。だから
といって、ソ連の崩壊に手を打
って喜んでいられたのでは困る
わけです。大きな船が沈むと、
その近くにいる小さなボートな
んかは巻きぞえて沈むんです。
末期症状の中で、水爆ミサイル
の誤射なんかやられたらかなわ
ない。そんな危険な状態にソ連
をさらすのではなく、今こそ日
本は、全力をあげてソ連の経済
の立て直しに力を貸すべきでし
ょう」

行使する意図なのか、③ある
いはソ連のイデオロギーなの
か。④体制なのか。そのへんを
キチンと分析する必要がある」
中嶋氏の分析が続けると、ま
ず、ソ連のイデオロギーについ
ては、今ではむしろ破綻だらけ
で西欧のほうが安定しており、
もはや脅威ではない。体制かと
いうと、ソ連体制は国内に反体
制主義者を抱え、物資の不足な
どもハッキリして、脅威とはい
えない。

とすると、あとは軍事力だ
が、ソ連が軍備を増強するに
は、一応、それなりの理由があ
る。日米中の三国同盟で孤立感
を深めているソ連にとって、頼

びわ湖畔でのご宿泊プランは

くつろぎの満足感・やすらぎの充実感。
たのしさ大きく――。



政府登録・ロイヤルチェーン加盟

びわ湖温泉
ホテル紅葉

大津市びわ湖畔 ☎0775-24-0176

裸天国と豪華ショー



地上9階・全140室・670名収容

紅葉パラダイスイン

総合レジャーランド 紅葉びわ湖温泉

大津市びわ湖畔 ☎0775-22-1055

近江大橋畔



政府登録国際観光旅館

晴嵐荘

大津市ぜぜ御殿ヶ浜湖畔 ☎0775-22-6785-6

豊かな明日を創造する丸玉観光グループ

《湖都大津》

ホテル紅葉
紅葉パラダイス
晴嵐荘

《古都京都》

京都パークホテル
京都セントラル・イン

るべきは軍事力しかないのだ。
「そういう意味では、GNPの
一四割という巨費を支出する
という非常に不幸なことで国民生
活を犠牲にしている。日本が、
これと対等の軍事力を備えるの
はもはや非現実的だ。」
そこでその軍事力行使する
意図があるかどうかということ
ですが、日本に対してソ連が軍
事攻撃をかけることは現段階で
は考えられません。日本国内に
最低限の抑止力があり、日米安
保がある以上、やれば世界大戦
につながりかねないからです。
本当に脅威を感じている西独な
どでは、軽々に脅威論など口に
しません。それほど冷静です
よ。最近ソ連に行ってみると分
かるんだが、アフガンなどで大
変で、他の地域で戦争をするな
んて余裕はともありません
よ」(中嶋氏)

戦争には「攻者三倍の原則」

では、われわれとしては、こ
の北方の隣人、ソ連とのよう
につきあっていったらよいのだ
ろう。その前に、ソ連の民衆は
いったい日本をどうみているの
か。

「ソ連民衆の中には、日本につ
いての悪感情はありませんよ。
彼らは例えばエレクトロニク
ス、医療品、あるいは小説や映
画などを通じて日本を知って、
むしろ敬意を払っています。反

ソ連民衆の中には、日本につ
いての悪感情はありませんよ。
彼らは例えばエレクトロニク
ス、医療品、あるいは小説や映
画などを通じて日本を知って、
むしろ敬意を払っています。反

取材／恩田勝且、水谷喜彦

中国挫折で財界はソ連へ

というものがあって、攻める側
は防禦側の三倍以上の兵力がな
ければ失敗するという。
「北海道には陸上自衛隊四個師
団がいるから、ソ連は最低九個
師団必要。ところがソ連太平洋
艦隊には、九個師団を運び、補
給をするだけの輸送船がないの
です。このこと一つみても、ソ
連は日本侵攻など考えていない
と思います」(陸幕一佐、前出)
「北海道をアフガニスタン、ポ
ーランドと同一視して『危ない』
というのは常識です。だから
ソ連脅威論という自衛隊高級

幹部たちの本音は、北海道危機
説で、国民の間に自衛隊増強の
コンセンサスをつくることにあ
りそうです」(軍事評論家・神
浦元彰氏)
評論家の安田武氏が語る。
「ソ連脅威論というのは日本に
ある伝説的なものですね。仮想
敵国をつくるというのは、政治
の一つの技術であり、日本の場
合、それは伝統的にソ連なんで
す。今は、軍備拡大からさらに
徴兵制、憲法改正まで、軍事大
国化へのプロセスとして、それ
が使われているんですよ」

ソキャンベーンが日本国内で
いくら叫ばれても、それを知っ
ているソ連人はマスコミ関係と
か上層部だけで、二億四千万人
の一般国民は無関係なのです」
(朝日新聞・木村明生氏)
こういふ今のソ連について
の、日本政府の基本態度はどう
なのか。某紙政治部記者の解説
によると――、
「鈴木首相は自民党の中では
『親ソ』派であることを自任してい
ると思う。それだけに逆に動き
にくい面もあるのではないか。
漁業面からいえばソ連と親しく
したいと考えているんでしょう
が、首相になった今では、漁業
交渉は実は領土交渉だったとい
って、以前のイメージとの違い
を打ち出している。要するに今
の鈴木首相の態度は、ソ連の経
済問題での弱味を知っていて、
向こうから妥協して接近してく

るのを待つ姿勢でしょう」
財界の態度はどうなのか。ア
フガン介入で一時座礁した日ソ
経済関係を回復しようと、四月
には日ソ経済委員会が開かれる
というが……。
「ソ連がポーランドに介入すれ
ば別でしょうが、財界の対ソ感
情は実は以前と少しも変わって
いないのです。むしろ、中国な
どのブランドが総崩れになって
いるので、再びソ連へという気
運です。財界はソ連脅威論など
にはずっとクールです。今は、
レーガンの外交政策を横目でみ
ながら、安保のワクが許す範囲
内で経済関係を拡大しようとい
うことでしょう。対ソ見直し論
が出てきつつあります」(経済
評論家・飯塚昭男氏)
反ソキャンベーン、大山鳴動
して自衛隊予算の増大が残っ
た、といったところか。